



学習心理学者, 大きなイヌを飼う



北海道医療大学心理科学部臨床心理学科 准教授
漆原宏次 (うるしはら こうじ)

関西学院大学大学院博士後期課程文学研究科修了。博士(心理学)。専門は学習心理学。著書は『学習心理学における古典的条件づけの理論：パブロフから連合学習研究の最先端まで』(分担執筆, 培風館)など。

数年前の6月, 札幌の初夏にしてはやけに暑い日でした。買い物途中, 休憩がてら立ち寄ったペットショップで, ぬいぐるみのような愛くるしいゴールデンレトリバーの子犬を発見。気になったので, 店員さんに頼んで抱かせてもらい話を聞くと, この子はついさっき入荷されたばかりで, 私が第一号のお客だとか。なんとなく運命を感じつつ, 愛くるしい顔を見ていると, 情が移ってしまい, 気が付いたら「この子, もらいます!」と言ってしまいました。当時, 近い将来に大型犬を飼いたいと考えてはいたものの, その日にイヌを迎えることなど全く計画していなかったというのに。これぞ運命の出会い? それとも, 衝動買いならぬ「衝動飼い»? 家に連れて帰った子犬は, とても人懐こくて, 私の顔を見ると大喜びで尻尾をパワフルに振るので, その様子から「フルフル」と命名。こうしてフルフルとの生活が始まりました。

私は学習心理学, 中でも条件づけの分野が専門なので, イヌのしつけなどはお手の物, お利口なワンちゃん一丁上がり!……と思っていたのですが, いざ実際に子犬を育て始めると, なかなか理屈通りにはいきません。トイレ, お散歩, 噛まないこと, 吠えないことなどを一つ一つ悪戦苦闘しながら教えているうちに, 気が付けば, フルフルのしつけの経験を通じて, 実際の場面での強化のタイミングやプロンプトを使うコツな

ど, 私自身が多くのことを学んでいました。

フルフルはすくすくと育ち, 一年半ほどで30キロもある立派な成犬に。学習心理学者が全力で躰をした甲斐もあり(?), 人好きでおとなしくて吠えない, お利口さんになりました。そこで, フルフルを迎えた当初から計画していた, アニマルセラピー活動に参加することにしました。地元で活動しているNPO「北海道ボランティアドッグの会」で行われているセラピー犬適性試験を受けたところ, 見事合格。以後, 認定セラピー犬として, 近所の施設を訪問し利用者の方とふれあう活動に, 4年間参加しました。

また, フルフルにはもう一つ大事なお仕事。それは, 大学のオープンキャンパスでの模擬講義のアシスタント。模擬講義では, 身近なペットのしつけを例にとって学習心理学の知見を私が説明し, その知見を使って教えた芸を, フルフルが参加者の前で披露します。もちろん一発勝負で失敗は許されないので, 合図とともに床を転がったり, 物をとって戻ってきたり, 「バーン」という声に合わせてひっくり返ったり, いろいろな芸を見事に(?)やり遂げてくれます。フルフルと一緒にやる模擬講義は, 大学のオープンキャンパスのちょっとした名物になりました。

一昨年からは, 学部ゼミで, ドッグセラピーの効果を実験的に検証する研究をフルフルと一緒に

始めました。学内で参加者を募り, 決められた時間フルフルとふれあってもらい, その前後でどのような心理的变化が起きるかを, 質問紙などいろいろな方法を使って測定します。ゼミ生が頑張ったおかげで良いデータが取れましたので, 今後学会などで発表する予定です。さらに, 平成28年度からは, 特定の曜日に大学キャンパスにセラピー犬として常駐させ, 学生さんに自由にふれあってもらうという新しい形での活動を計画しています。

フルフルをうちに迎えて以来, 彼女は学習心理学の実践の師匠として, アニマルセラピー研究の相棒として, そして家での愚痴の聞き役(セルフアニマルセラピー?)として, 私の良きパートナーとなって来ています。まさに, イヌは人間の最高の相棒であることを日々実感しています。これからも, 研究でもプライベートでも充実した愛犬ライフを, 二人五脚(?)で送っていこうと思います。



近所のモエレ沼公園でご機嫌な様子のフルフル。